



経済学部 2027

Faculty of Economics , Yamaguchi University



経済学部

経済学科

本科（経済・国際経済）
公共管理コース

経営学科

本科
職業会計人コース
企業法務コース

観光政策学科

本科
観光経済分析コース
観光コミュニケーションコース

大学院人間社会科学研究所 経済学・経営学専攻

経済学プログラム

公共管理コース
経済社会政策コース

経営学プログラム

中山間地マネジメントコース
医療・福祉経営コース
税務コース

学部理念・目標

Ideal and goals

経済学部は、「広く社会現象について自ら問いを発見し、その問いの解決の方策をはぐくみ、豊かな社会の構築に貢献する」という観点から、「社会に貢献しうる実践的経済人の育成」をめざしています。そのため、特徴あるコースカリキュラムにおいて知識や技術を修得し、伝統ある少人数教育ゼミナール等においては幅広い人間形成を図ります。そして、国際社会や地域社会の現実的要請に応えられる、実践的で個性的なたくましい人材を育てたいと考えています。



学部概要

Overview

経済学部のルーツは、1815年に長州藩士の上田鳳陽が開設した山口講堂まで遡るとされ、同窓会の名称は鳳陽会と言います。その後1905年に山口高等商業学校、1949年に山口大学経済学部となり、1975年に修士課程、1980年に経済法学科、2001年に博士課程の東アジア研究科、2004年に職業会計人コース、2005年に観光政策学科などを設置してきました。2015年に学科を再編し、現在に至っています。

また、東亜経済研究所、商品資料館などの施設も併設しています。今まで多くの経済人を養成し、日本の経済界に多大な貢献をしています。教育理念・目標にあるように、国際社会や地域社会の要請に応えられる、実践的で個性的な人になるための手助けをしたいと考えています。そして、リーダーシップにあふれた人を求めています。



商品資料館

先進的取組

Progressive activities

公認会計士や税理士を目指す職業会計人コースを2004年に設置し、翌2005年には国の観光立国という戦略的政策を踏まえ、国立大学では唯一の観光政策学科を設置しました。行政や企業と連携協力し、地方創生に力を発揮しています。

大学院では、2002年にJICAの要請を受け、全ての授業を英語でおこなう公共管理コースを設置しました。JDS（日本政府の無償資金協力）による留学生を受け入れて以来、PHRDPⅢ（インドネシア政府による第3期高等人材開発計画）、PEACE（アフガニスタン国未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト）、ABEイニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）と人材育成事業を拡大し、途上国における人材養成の面で日本国政府の外交施策に寄与しています。2009年には医療・福祉施設におけるマネジメントに秀でた人を育てる医療・福祉経営コースを設置し、修了生は地域医療・福祉の分野で活躍しています。これらの実績を踏まえ、学部にも公共管理コースを設けています。



東亜経済研究所（山田孝太郎記念館）

経済学科 Department of Economics

「景気がよくなったり悪くなったりするのはなぜ?」「なぜ東アジアに世界の注目が集まるの?」「グローバル化って具体的にどういうこと?」経済学科ではこうした経済に関する身近なテーマや素朴な疑問を深く広い視点から勉強できます。経済学科で勉強すると、日本や世界経済の動き、世の中を理解するために必要な知識・分析力を身につけることができます。また、公務員試験に係る授業内容が多いことも経済学科の特徴の一つです。このように経済学科では、経済社会の基本的枠組みを学び、グローバル社会・地域社会に貢献する実践的な経済人を育てます。

具体的な分野としては、学部専門教育全体の基礎となるミクロ経済学やマクロ経済学、そして経済統計を基礎としつつ財政学、金融経済、労働経済、地域経済など経済学を体系的に習得でき、しかも政治経済学、経済史、社会政策、社会学（地域福祉・ジェンダー論）、政治学など社会科学全般を広く学べます。さらに国際経済、国際金融、国際協力等の勉強もできます。ゼミごとにも、中国・韓国、中には欧州や北米を訪問しているところもあります。また山口県を始め地域の経済社会の研究を進めているゼミもあります。

卒業後は、地方公務員・地方銀行を中心に、国家公務員、全国的に有名な企業、地方の有力企業等に就職して活躍し、地域に貢献しています。本学科出身の大学教員が何人か本学部で教鞭を執っているのも特筆すべきでしょう。



公共管理コース

コースを選択することで、その分野をより深く学ぶことができます。
コースの選択は必須ではありません。

グローバル化社会に貢献する実践的な経済人の育成を目指すため、よりアドバンストな公共管理コースを経済学科に設置しました。公共管理コースでは「国際公共管理論」など英語を利用する講義や、留学希望者には、推薦時の優先順位を上げるなど短期を含めた留学のチャンスを増やすような仕組みも用意されています。

さらに、すでに実績のある山口大学人間社会科学研究科（大学院）の公共管理コースとの接続を考慮して、大学院進学時に履修単位が認められる「大学院科目先取り履修制度」を利用できるようにしています。山口大学人間社会科学研究科の公共管理コースは、2002年に外国人留学生を対象として開設され、これまでに東アジア、東南アジア、南アジアおよびアフリカ地域から多くの留学生を受け入れてきました。帰国後はそれぞれの組織に復職して、母国の社会経済発展に貢献しています。2011年からは、同コースの開設10周年記念事業の一環として、日本人学生の受け入れを開始しました。もともとは途上国の学生のためのコースでしたが、将来的に途上国で活躍したいという意志を持つ日本人の学生、公務員、民間企業、NGOの関係者にとっても、最適かつユニークなカリキュラムとなっています。

公共行政管理は、開発途上国の発展にとって極めて重要なテーマです。本コースでは、国際協力に携わる人材に必須の科目が充実しており、経済学、財政学、経済統計学、経済数学、行政法、国際協力、プログラム評価など多岐にわたる科目を、それぞれ理論と実務に精通した教員が担当しています。



経済学科 准教授
小嶋 寿史

教員の
声

ゼミ

小嶋ゼミは経済学のゲーム理論を用いて分析や研究を行っています。しっかりと研究を行い、卒業論文としてまとめ上げることを目標としています。

ゼミ運営においては、楽しい雰囲気づくりを大切にしています。研究活動以外には、ゼミ合宿や、バーベキューやスポーツ大会などのイベントも行っていきます。ゼミ生同士の仲が良く、研究と遊びのメリハリがあることが小嶋ゼミの特徴です。

活動

2025年度は、財務省山口財務事務所や他のゼミと共同でグループワークイベントを開催しました。近年注目されている「フューチャー・デザイン」という手法を用いながら、「AIが発展した未来の社会」というテーマで、未来人になりきって2045年の社会の姿を想像するなどしながら、ディスカッションを行いました。学生だけでなく、たくさんの民間企業や公務員のみなさんと一緒に議論を行い、とても盛り上がりました。



在学生の
声



経済学科3年 Uさん

学び

私が大学の勉強で重きを置いているのは理解の深化です。

学習内容を言語化して他の人に説明できる程度の理解度であるかを大切にしています。

経済学の講義は学問上、知識をインプットする形式が多いと思います。だから、学習内容を自らで言語化してアウトプットすることで、より知識の定着を図ることが重要です。

私はこの工程を授業内容の理解度の指標とし、大学での勉強と向き合っています。

課外活動・生活

大学は今まで以上に人との繋がりが尊重されるところだと実感します。

勉強面では互いに支え合い、長期休暇においては友達と過ごす時間が大学生活に彩りを与えてくれると信じています。

繋がりが生まれるきっかけの一つが部活動・サークルです。山口大学には数多くの部活動・サークルが存在するので、経験として何か入ってみることをおすすめします。

経営学科 Department of Management

経営本科では経営学を本格的に学びます。「経営」とは、利潤追求の私企業の経営だけを指す言葉でなく、学校や病院など、利潤追求を目的としない組織を含む、あらゆる組織や主体の明確な目的のもとでの運営を表す言葉です。したがって、経営学を学んで身につけた知識は、将来、どのような環境で生きていくのにも有効な指針を与え続けます。

経営学の研究対象は「社会的存在としての主体」の「社会的な活動」そのものです。そして、個々の組織や企業の現実の行動そのものを研究対象とする実践的な学び方が主体となります。このような「社会」に対する実践的な学びから、個々の学生が独自に総合的な判断を行い、人と社会との関わり、自分を含めた組織と社会との関わり、さらに大きな主体が社会のなかでどのような役割を担うかといった問題にまで主体的に考察する力を養っていきます。

山口大学経済学部の経営本科は、「マネジメント」、「アカウンティング（会計）」、「マーケティング」、「経営と情報システム」の4分野を総合的に学ぶことができます。経営学を学ぶということは、数多くの科目を学ぶことになりますが、それらの科目は相互に関わり合っていて、その関わりを理解すれば、卒業するころには人と社会との関わりについて自分で考え、自分自身の理解に基づく考えをしっかりと持てるようになります。



企業法務コース

コースを選択することで、その分野をより深く学ぶことができます。
コースの選択は必須ではありません。

企業法務コースは、法律と経営の両方を学ぶコースです。経済学部に入学後、1年生の後期に行われる学科・コース振り分けて企業法務コースを選択すると、大学を卒業するために必要とされる専門科目の単位の6割強を法学系科目で取得できるようになります（※取得する法学系科目の単位数を5割弱に留めることもできます。）。

企業法務コースの法学系科目には、法理学・憲法Ⅰ・憲法Ⅱ・民法Ⅰ・民法Ⅱ・民法Ⅲ・民法Ⅳ・民法Ⅴ・刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・商法Ⅰ・商法Ⅱ・商法Ⅲ・商法Ⅳ・経済法・知的財産権法・社会法Ⅰ・社会法Ⅱ（※「社会法」の授業内容は「労働法」が中心です。）・民事訴訟法・行政法Ⅰ・行政法Ⅱ・税法Ⅰ・税法Ⅱがあり、法学を体系的に学べるようになっています。また、企業法務コースの学生は、法学系のゼミに所属して法学系のテーマで卒業論文を書きます（※山口大学経済学部では、すべての学生がゼミに3年間所属して卒業論文を書きます。）。

企業法務コースは、銀行をはじめとする民間企業に就職したい人はもとより、公務員志望の人にもおすすめです。公務員試験で「主要5科目」といわれるのは、憲法・行政法・民法・経済原論（ミクロ経済学とマクロ経済学）・数的処理ですが、経済学部生としてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んだうえで憲法・行政法・民法もじっくり学べる企業法務コースのカリキュラムは、公務員志望者には打ってつけてしょう（※企業法務コースの授業は公務員試験対策を目的としたものではありません。なお、山口大学ではキャンパス内で大学生協と専門学校の公務員試験対策講座（有料）が開講されており、多くの学生がそこで勉強しています。）。実際のところ、学科・コース振り分けの際に企業法務コースを選ぶ人の中には公務員志望の人が少なくないのです。

職業会計人コース

職業会計人コースは、会計専攻と税務専攻の2専攻が設けられており、卒業に向けて勉強するとともに、公認会計士試験や税理士試験の在学中合格を目指すコースで、定員は合わせて40名です。日本や世界の会計・税務で活躍できる人材を育成するコースです。この会計資格は、ビジネスパスポートです。監査法人、税理士法人だけではなくコンサル等様々な分野で活躍できます。

両専攻とも、1年生後期12月から会計実習が始まります。専門学校と提携しており、大学の授業のない時間帯に会計実習講義が組まれています。大学の授業料とは別に実習費も必要です。開始時には、日商2級レベルの簿記の知識を前提としていますので、1年生前期からの勉強が必須となります。

専門学校ではありませんので、試験の受験勉強だけではありません。中心は会計や税務ですが、経営学科の科目を学び、ビジネスを理解する力の育成と資格取得の両立を目指します。また、2年から始まるゼミも重要な科目です。論文試験に受かるためにも、考え方をゼミで学ぶことを大切にしています。

公認会計士試験の合格者は監査法人へ、税理士試験の科目合格者は、税理士法人等に就職します。税理士試験の5科目合格者は自分で税理士事務所を開くことも出来ます。また、会計に関する幅広い専門知識や、日商簿記1級取得等の資格を武器に、金融業界などへ就職する学生も多々います。

1年生後期から4年生前期まで続く厳しい道のりですが、毎年、数人の学生が、輝ける在学中の合格者となっています。自分との闘いであるこのコースには苦勞をした学生でないと味わえない喜びもあります。



経営学科 准教授
平野 哲也



ゼミ

平野ゼミは、山口県内の中小企業に協力していただいて、「世界標準の経営理論」を《思考の軸》とする経営学学習の場づくりをしています。

いま、中小企業は「勤と経験」をもとに経営するのではなく、「マネジメント」を学んで組織を経営することを求めています。そこでゼミ生たちが「世界標準の経営理論」に関する講義を担当します。そのうえで、社長さん・社員さんから自社の課題を提示していただき、学生が課題解決の提案をさせていただくという活動をしています。

活動

経営学科の2~3ゼミが集まり、全国規模の書籍卸や山口県内の書店に協力していただいて、書店の活性化に取り組んできました。

いま、書店のない地域が全国的に増えています。書店は地域の文化・知識の発信拠点ですから、地域の書店を守り育てることが大切だと考えています。具体的な活動としては、ゼミ生が書店の新しい価値の創出や集客の仕組みづくりに取り組みました。ゼミ生の活動は、地域のなかでも注目を集めています。



経営学科3年 Iさん



学び

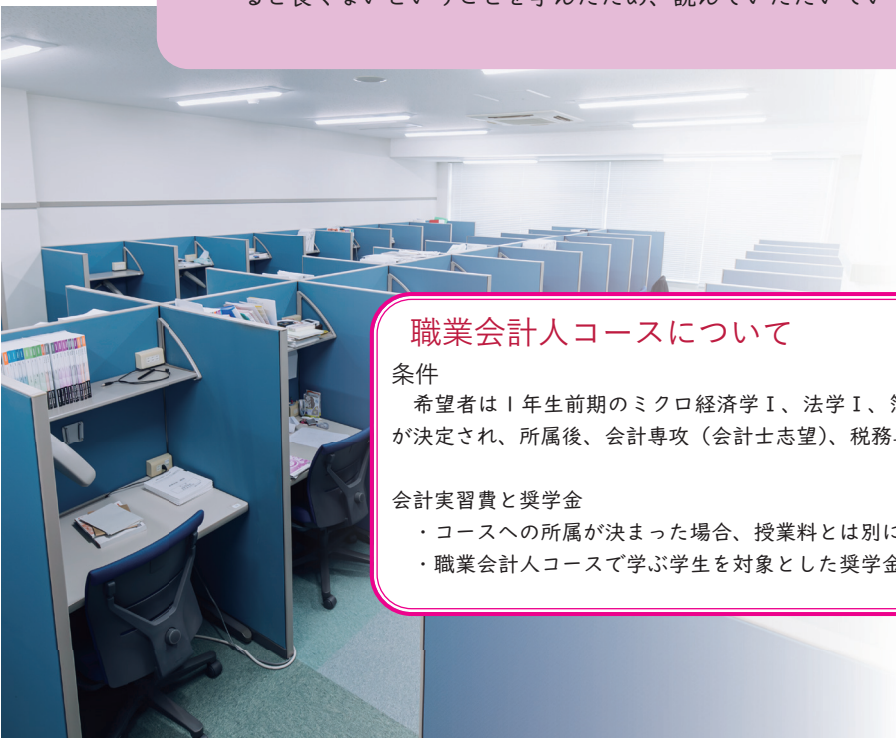
私は大学での勉強において、その内容を言語化することに重きを置いています。もちろん、やっていること自体の難易度は高いので言語化ができないこともありますが、学生である私たちにとっては学習した内容を自らの解釈で正しく理解できることが一番だと思っています。

これは社会に出たときでも役に立つスキルだと感じています。

課外活動・生活

大学一年生の頃、一時期体調を崩してしまいました。資格勉強と一人暮らしという新しい環境でのストレスが重なって気を張り詰めすぎたのかもしれないです。

大学生活は基本的に二度と訪れることない貴重な時間であることは確かですが、何事も頑張りすぎると良くないということを学んだため、読んでいただいている皆さんに共有しておきたいと思います。



職業会計人コースについて

条件

希望者は1年前期のミクロ経済学Ⅰ、法学Ⅰ、簿記の3科目の得点により、コースへの所属が決定され、所属後、会計専攻（会計士志望）、税務専攻（税理士志望）に別れます。

会計実習費と奨学金

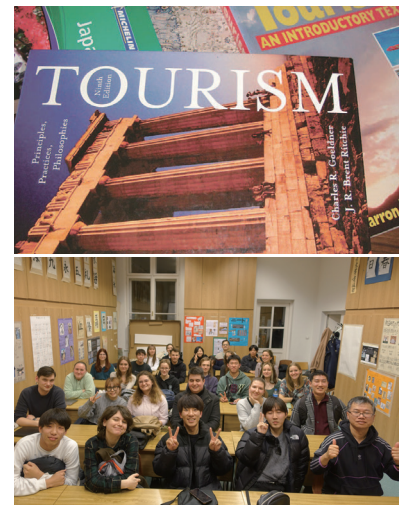
- ・コースへの所属が決まった場合、授業料とは別に会計実習費として88万円が必要です。
- ・職業会計人コースで学ぶ学生を対象とした奨学金制度（数名/年）があります。

観光政策学科 Department of Tourism and Travel Industry Policy

国立大学としては初の経済学を基礎にした観光政策を学ぶ実践的な学科で、2005年4月に経済学部内に開設されました。発足当初は、学生定員30人の観光経済分析コースと観光コミュニケーションコースの2コースでした。翌2006年末には「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を基本理念とする観光立国推進基本法が成立し、高等教育機関における観光教育・研究への期待は一挙に高まりました。2015年には本科が加わり、より多くの学生が観光を専門として学べるようになりました。

本科と二つのコースの修学内容は基本的には同じものです。両者の違いは卒業要件となる必須科目数と語学のハードルの高さです。コースでは観光政策の立案能力を高めるための国内でのプロジェクト演習が必修科目とされているほか、国際観光交流の手段として不可欠な語学力、具体的には原則としてTOEIC600のハードルを越えるなどが求められます。観光政策学科の学生限定の海外プロジェクト演習に関しては、本科専攻生もコース専攻生同様に受講できます。

観光政策の力点が観光産業の育成から地域格差是正のための観光振興、地域や国のブランド創出へとシフトするなか、卒業後の進路は観光業界に限らず、経済学科、経営学科、観光政策学科の2コース同様に、公務、金融、商業、サービスなどと多様となっています。



コースを選択することで、その分野をより深く学ぶことができます。
コースの選択は必須ではありません。

観光経済分析コース

観光活動は観光を行なう主体の観光客とその対象（客体）としての観光資源との相互の作用・反作用関係とすることができます。この観光活動を営利目的で商品化し増大させるのが観光媒体としての観光産業で、それなくして観光経済も観光経済分析も存在しません。

観光活動の促進の担い手としての観光産業は、観光客数の増大や観光商品の値動きだけでなく、他の産業以上に政治・経済・国際情勢や社会・環境問題などにも気を配らなければ利益を得ることができません。観光商品の構成要素として、観光施設や観光サービスとともに観光資源があるからです。観光経済には、そうした個別企業レベルの経済・経営（ミクロ経済）だけでなく、観光消費の経済波及効果による地域経済や国民経済の所得・拡大再生産（マクロ経済）もあります。経済が発達すればするほど、少子高齢化、生産労働人口の減少、産業の空洞化、自給率の低下、そして地域間の所得格差などの問題が顕著となり、観光により先進的地域からどれだけの所得移転があり、どれほど地域格差の是正や産業構造の高度化に貢献できるかなど、観光のマクロ経済分析に大きな関心が寄せられることになります。

観光経済分析コースでは、観光経済を質だけでなく量の側面からも把握し、現実の観光政策や観光マネジメント両面に活かす上での、国際標準の政策立案能力や観光産業企画力を培います。観光経済分析コースの必須科目として、観光経済分野では観光政策概論、観光経済学、観光ビジネス分野では観光産業総論、観光と環境分野では環境経済学が、基礎的あるいは応用科目として観光統計学、観光政策評価論、観光管理会計、交通産業論、ヘルスツーリズム論、旅行契約と約款、エコ・ツーリズム論、観光地理学などが挙げられます。その他、コミュニケーションコースの必須科目の観光コミュニケーションと異文化コミュニケーション論も必須科目として指定されています。

観光コミュニケーションコース

本コースは、「旅」や「観光」を行う側の視点、「旅」や「観光」を行っている人々を受け入れる側の視点、その両者を言わば俯瞰（ふかん）しながら、具体的に観光プランを立案できる者（観光リーダー）を養成するものです。「旅」や「観光」の対象となる場所は数限りなくありますが、たとえば、日本と外国という境界線を設けて考えてみるならば、外国から日本を訪れる人々の視点、ならびに日本において外国から来られる人々を受け入れる側の視点があるわけです。このコースでは、いつも身近に接しながら、意外と知らない面が多い日本や山口の文化・歴史について、そして近隣諸国や欧米の異文化について学ぶことで、そうした両方の視点を持てるように努めます。前者については、「山口の歴史と文化」、「日本文化・宗教論」、後者については「異文化コミュニケーション論」という名前の開設科目があります。その一方で「観光」の本質に迫る授業として「観光文化心理学」、「観光コミュニケーション」の科目が用意されています。しかし現実の社会を舞台とする「観光」について、その知識を増やすだけでは意味がありません。実際に行動してみる必要があります。そのためこのコースには、観光リーダーとしての将来の活躍に直結するような経験をやる機会が用意されています。それがコースの要と位置付けられる「プロジェクト演習」です。この演習では皆さんが事前に考えた「観光」に関係するプロジェクトを、現実の観光地において実践し、その成果を、コースの他のメンバーと分かち合うべく、後日、授業で発表していただきます。もちろん海外でのプロジェクトを可能にするための前提となる語学力（英語、中国語、韓国語）については、その養成に力を入れています。英語では基礎的なレベルのものから、TOEIC、TOEFLのハイスコアを目指す授業まで充実した授業科目がありますので、英語力の大きなレベルアップが可能です。



観光政策学科 教授
西尾 建

ゼミ

西尾ゼミでは、マーケティング理論に基づいた分析力を養うとともに、何より「現場に出ること(フィールドワーク)」を教育の柱としています。毎年、各種コンテストへの参加を軸に、山口県内を中心とした地域課題を学生自らが設定。現状分析から解決に向けたクリエイティブな提案を導き出すまでのプロセスを実践的に学びます。

近年は、旅行行程におけるシームレスなサービス提供のあり方や、高齢者・障がいのある方の視点に立ったユニバーサルデザインの導入など、格差是正の観点からも地域の持続可能な発展に向けた研究に取り組んでいます。

活動

学外での経験を深めるため、スポーツや観光をテーマとした政策コンテストに積極的に参加しています。特に、文部科学省・スポーツ庁が後援する「スポーツ政策コンテスト (Sport Policy for Japan)」においては、2023年度に2チームが特別賞、2024年度には全76チーム中上位6チームに相当する「優秀賞」を受賞するなど、着実な成果を収めています。

また、海外の大学から講師を招いたセッションや、英語でのプレゼンテーション訓練を継続的に実施しており、ローカルな課題に対してグローバルな視点からアプローチできる人材の育成に力を入れています。

教員の声

在学生の声



観光政策学科3年 Mさん

学び

私が最も印象に残っている授業は基礎セミナーです。

ゼミの前段階として、グループで動画編集に取り組んだり、山口市長にプレゼンを行ったりと、通常では体験できない貴重な経験を通じて大きな力がつきました。

2年次からは専門科目が始まり、観光政策学科では山口各地の観光地を訪れて課題を発見する授業や、海外研修に挑戦できる授業など、魅力的な学びが広がっています。

自分の関心に合わせて学べるのは大学ならではの良さです。

課外活動・生活

大学生の1番の魅力は、自分の行動しだいで何事にも挑戦できることだと感じています。

実際に私は、山口市の観光アンバサダーに就任していたり、サークル活動を通して地域の方々を巻きこんだ大きなイベントの運営、豪華クルーズで海外に行くなど、通常では味わえない貴重な経験が数多くできています。

大学生だからこそ声をかけてもらえる機会も多いので、ぜひやりたいことはしっかり声に出して叶えて行って欲しいです！



大学院人間社会科学研究所（経済学・経営学専攻）

経済学プログラム

公共管理コース

グローバル化した社会に貢献しうる人材育成のため、英語による授業・研究指導を行っており、学部の公共管理コース（経済学科）で学んだ学生がより高度な知識や能力を身に付けたい場合の進学先にもなります。

経済社会政策コース

自治体による地域振興政策の検証や評価などを通じ、地域特性に応じて意欲的に政策を企画・立案できるリーダーとして活躍しうる人材の育成を目指しています。

経営学プログラム

中山間地マネジメントコース

地域活性化に向け、中小企業の経営革新や海外展開に意欲的に取り組む経営人材の養成、中山間地における地域資源等を活用し、地域を牽引する経営人材の育成を目指しています。

医療・福祉経営コース

医療機関や福祉施設などの経営の専門家の育成を目指しています。

税務コース

税法の研究科目を専攻すると、修了後に税理士試験の一部が免除されることがあり、学部の職業会計人コース（経営学科）で税理士志望の学生にとって選択肢の一つになります。

就職支援

山口大学では「知の広場（1年次）」や「キャリア教育（3年次）」といったキャリア意識を醸成する科目を必修化しています。また充実した就職支援組織である山口大学キャリアセンターが中心となって、就職相談、就職に関するイベント・セミナーの開催、業界・企業研究会などを実施している他、公務員講座や資格対策講座など学内で受講可能な有料講座も多数開設されています。

これらに加え、経済学部では、リクナビやマイナビなどの就職情報サイト運営企業と協力して学年別の「就職ガイダンス」を年間を通して実施、また山口しごとセンター（公的就職支援機関）の協力のもと履歴書作成や模擬面接などの個別サポートにも力を入れています。

進路

就職先は、金融業・保険業をはじめ、国家・地方公務員、情報通信業、製造業など多岐にわたります。特に、専門知識を活かせる業種や公務員への就職が多くなっています。また、学科による就職の不利・有利や就職先の違いはほとんどありません。

<主な就職先> ※2026年2月末現在

【一般企業】

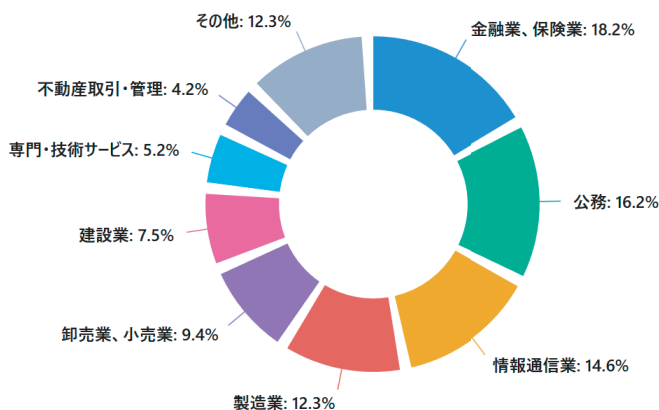
朝日生命保険相互会社、㈱一条工務店、EY新日本有限責任監査法人、㈱大塚商会、㈱かんぼ生命保険、キャノンマーケティングジャパン㈱、キリンホールディングス㈱、KDDI㈱、シスメックス㈱、㈱商工組合中央金庫、㈱損害保険ジャパン、大和ハウス工業㈱、㈱竹中工務店、中国電力㈱、デル・テクノロジーズ㈱、有限責任監査法人トーマツ、東洋製罐グループホールディングス株式会社、西日本電信電話㈱、西日本旅客鉄道㈱、日本生命保険相互会社、日本銀行、日本タタ・コンサルタンシー・サービス㈱、日本郵便㈱、NECソリューションイノベータ㈱、㈱ファーストリテイリング、㈱ふくおかフィナンシャルグループ、㈱三井ハイテック、㈱三菱UFJ銀行、㈱山口フィナンシャルグループ、㈱りそな銀行 など

【公務員その他】

財務省、総務省、厚生労働省、国土交通省、法務省、広島県、山口県、山口県警察、福岡県、鳥取市、山口市、下関市、北九州市、阿蘇市 など

令和7年度 産業別就職状況

2月末現在（308名）



修学支援

経済学部では、以下のような学部独自の修学支援・修学奨励に関する制度や取り組みを行っています。

修学状況の共有と修学指導・面談

学期の修学状況を保護者と共有し、学期ごとに一定基準の学業成績に満たない学生に対して面談・指導を行っています。

この面談・指導は、修学意欲向上のきっかけとしてだけでなく、修学や生活上の問題を抱えた学生の早期発見、引きこもりや不登校等の発生防止としても役立っています。

七村留学支援基金

株式会社セプテーニ・ホールディングスの創業者で、山口大学経済学部の卒業生である七村 守様が創設してくださった基金で、経済学部生の海外留学にかかる費用を援助する給付型奨学金です。

アジアへの留学には10万円以内、アジア以外への留学には20万円以内の支援を受けることができます。

職業会計人コース対象奨学金制度

職業会計人コース所属の学生を対象とする貸与型の奨学金制度（88万円以内、無利息）があります。

また、鳳陽会（同窓会）による給付型の柳上奨学金（1回11万円、最大3回受給可能）も用意されています。

スタディサプリEnglish「TOEIC® L&R TEST対策コース」受講支援

リクルート社のスタディサプリEnglish「TOEIC® L&R TEST対策コース」3か月間を学生の自己負担金は1ヶ月分（3278円）のみ、残り2カ月分は経済学部教育後援会からの補助で受講できます。

経済学部教育後援会資格取得等報奨金制度

学部が指定する資格・検定試験において優れた成績を修めた学生に対し、その努力を奨励し、自発的な学習を支援することを目的として、報奨金を授与しています。

上田鳳陽賞・Summa賞

各学年（2～4年生）・各学科の前年度成績優秀者に対して上田鳳陽賞を授与しています。

また、公認会計士試験論文式試験の合格者と税理士試験4科目以上の合格者にはSumma賞を授与しています。共に鳳陽会から副賞も授与されます。

鳳陽基金学生支援助成

学生主体の企画で、当該学生にとって教育効果の高いものに対して、1件あたり最大20万円の助成を行っています。最近の助成事例では、「ジュニア簿記塾」（中学生に簿記の楽しさを教える企画で、中学在学中に日商簿記3級の資格を取得することが目標）などがあります。

これら以外にも全学的に実施している各種の修学支援・修学奨励制度もあります。詳細は「山口大学案内2027」をご覧ください。

鳳陽会

一般社団法人鳳陽会は、山口大学経済学部の同窓会です。北は北海道から南は鹿児島まで全国に40の支部があり、各支部は2万人を超える卒業生の同窓会活動の拠り所となっています。

経済学部では、鳳陽会との連携の下、実際の企業へのインタビューや視察を通じて、学生が自由な発想で企業の経営課題の解決策を検討し、提案する、実践的に企業経営を学ぶための経営コンサルタントによる鳳陽会寄附講座「ビジネスモデル開発プロジェクト」を令和7年度に開講しました。また、鳳陽会の柳上奨学金の給付やSumma賞の授与などにより、職業会計人を目指す学生の支援に取り組んでいます。

この他、鳳陽会では、国際交流の促進、グローバル人材育成のための英会話講座の開講や短期海外語学留学に対する支援、上田鳳陽賞の授与や成績優秀者、課外活動で顕著な活躍をした学生の表彰を始め、経済学部や、在学生を支援するための様々な取組を実施しています。

山口大学入試関連情報（入学者選抜要項・インターネット出願など）

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/>

最新の情報は必ず「入試関連情報」よりご確認ください。





経済学部

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/econo/>

〒753-8514山口県山口市吉田1677-1

TEL:083-933-5500 (代表)

◎入試に関するお問い合わせ

TEL:083-933-5506 (学務係)

◎大学院に関するお問い合わせ

TEL:083-933-5597 (大学院係)

